

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

# JR東労組

# 本部OB会

# ニュース

No.248 2017年10月発行

## JR総連OB連絡会の拡大幹事会で 古川会長が闘いを報告

～ もっと交流の場を求める意見が相次ぐ ～

今年で3回目のJR総連OB連絡会拡大幹事会が9月13日から2日間の日程で、新装なった目黒さつきビル会議室で開催されました。この拡大幹事会にはJR総連OB連絡会の幹事の他に、全国の5単組OB会から各3名の代表（JR東労組OB会は5名）と5単組のOB担当者が集まり、「OB会の組織強化」や「JR北海道の事業範囲見直し」等について時間が経つのも忘れて熱い討論が行われました。

またこの拡大幹事会には、たしろかおる前参議院議員と日本退職者連合の菅井義夫事務局長も駆け付け、温かい激励の言葉をいただきました。

拡大幹事会は、13時から藤原副会長（JR貨物労組OB会）を座長にして始まり、主催者の大熊会長（JR東労組OB会）の挨拶の後、来賓の日本退職者連合の菅井事務局長とたしろ前参議院議員から暖かい激励の挨拶をいただきました。

### 榎本委員長から連合の話が

JR総連の榎本委員長（JR北海道労組）からは、マスコミでも報道された連合の「残業代ゼロ法案」を巡る経過や「JR北海道の事業範囲見直し」等についての報告があり、現場から遠ざかっているOB会の参加者にも分かり易いお話でした。

その後、伊藤事務局長（JR東労組OB会）からJR総連OB連絡会の一年間の取り組みの経過報告が行われました。

討論では、JR北海道労組OB会を始め、東労組OB会、東海労OB会、西労OB会、貨物労組OB会の8名からと、JR東労組と貨物労組の2名のOB担当から発言がありました。発言の内容では、数年後から本格的

に始まるOB会員の減少と高齢化に関する意見や、次期の役員を担う人づくりの悩みと、今まで少なかった単組間の交流の場を多く作って欲しいなどの要望意見が出されました。

JR東労組OB会からは古川会長が発言し、否定的な政治状況を変革するには「もっと積極的なJR総連の関わりを」と訴えながら、「支部OB会の強化」、「エルダーのOB会加入促



2017年度拡大幹事会に集った各単組OB会の仲間達

進」、「韓国労働者と沖縄県民との連帯」等の東労組OB会の取り組みを報告しました。

### JR北海道の事業範囲 見直し」を学習

2日目はJR総連の八幡直文政策部長（JR北海道労組）から、「JR北海道の事業範囲見直し」に直面しているJR北海道労組が作成した国鉄改革30年を検証した「愛され親しまれ利用される鉄道づくりをめざして」のパワーポイントを観ながら学習をしました。

学習会の中では、事業範囲の見直し対象になっている線区が説明された後、関係自治体の首長や住民の声と、この30年間の会社の自助努力や組合員の涙ぐましい取り組みが紹介されました。

そもそもJR北海道は本州3社とは違って、会社発足当初から経営難が予測されており、そのために国から「経営安定基金」が設置され、その運用益で赤字部分を補填して行く事でスタートしており、その後のバブル崩壊で日本経済が破綻して今日の経営危機を向かえている事があきらかにされました。従って八幡氏はJR北海道は安易に利用者や自治体に負担を求めず、また国に対しても国鉄改革の経緯から国の責任で是正すべき事を訴えました。

この学習会に参加した各単組OB会の参加者は、今一度心を一つにして「JR北海道の事業範囲見直し」に対して苦闘する現役の取り組みを支援して行く決意を確認しました。

# 生き生きと安心して暮らせる社会を目指して

# 今年も「全国高齢者集会」が

## J R 東労組OB 会も全国の仲間と共に参加

日本退職者連合は、9月14日13時より「東京ドーム」近くにある「文京シビックホール」で、全国から1800名の高齢者が参加して「2017全国高齢者集会」を開催しました。



デモの先頭を行く退職者連合の役員

J R東労組OB会も、前日に開催された「JR総連OB連絡会拡大幹事会」に参加した全国の仲間と共に参加しました。

集会は、今年から日本退職者連合の新任会長になった人見一夫会長(全日本自治体退職者会)の主催者代表挨拶で始まり、来賓として連合の神津会長、民進党の新しく幹事長になった大島幹事長、社民党の吉田党首が挨拶した後、集会実行委員会会の構成団体である中央労福協、労金協会、全労済の代表もそれぞれ挨拶をしました。

その後菅井事務局長が基調報告を行い、続いて岩手県と熊本県の退職者連合から「3・11東日本大震災」と昨年「熊本地震」の被災地から現状の報告がありました。

また第2部の交流の広場では、岡山県全印刷退職者の会の女性3名による凛々しい「剣詩舞」がそれぞれ披露され、会場の参加者からやんやの喝采を浴びました。

集会後は、全国から集まった元気な高齢者によるデモ行進が4つのグループに分かれ、西神田公園まで元気に行われました。JR東労組OB会も、全国のJR総連OB連絡会の仲間と共に元気に参加しました。

なお来年の「全国高齢者集会」は9月12日に開催が予定されています。

### 高崎で納涼祭を開催

高崎地本OB会は、8月19日に地本会議室で納涼祭を開催し、58人の会員が参加しました。納涼会は5年前から地本OB会主催で街の「ピアホール」で開催していました。しかし、参加者から「年金生活者にやさしい参加費に」の声が出て、場所を無料の地本会議室に移して、手作りの開催としました。今年からは名称も「納涼祭」にしてビンゴゲームなども行い、より楽しさを追求しました。

納涼祭は15時から堀口会長と内藤副委員長の挨拶でスタートし、最高齢で81歳の反町さんが乾杯の首領をしました。30分もすればお酒も進み、各テーブルでは得意満面で政治経済の問題をはじめ、グラウンドゴルフの指導などの話で盛り上がりました。ビンゴゲームでは、酔っ払いの会員も童心に帰り真剣な眼差しでした。楽しい時間も時には現実に戻り、会員の身の上話にも及んでいました。OB会の仲間のどんな話にも真剣で親身になって話す姿には、本当に仲間の大切さを感じさせられました。

納涼祭の最後を飾ったのは、堀口会長の「じゃんけん大会」でした。尽きる事のない仲間とのひと時も終了の時間になり、健康寿命を考えるOB会運動を皆で考え、次回の開催を楽しみに終了しました。

(高崎地本OB会)

### 原ノ町支部OB会が総会開催

原ノ町支部OB会は9月8日15時より、「第16回定期総会」を原ノ町情報館で18名の参加者で開催しました。

来賓には本部OB会の廣瀬副会長、地本OB会の栗村会長と柳内副会長が参加

### わが町の 有名人

飯塚さんを紹介します。

飯塚さんは昭和32年に旧国鉄の東京鉄道管理局に入社し、整備掛として当時の尾久機関区に配属されました。そして有名な12・13尾久・田端統廃合反対のたたかいを動労尾久支部青年部長として担い、その後も支部、地本の役員を歴任し55歳でJRを退職しました。

東京地本OB会 今月は本部OB会の初代会長で上野支部OB会員の飯塚不二男

### 地域活動の重鎮

飯塚さんは組合の要職を担いながらも、現役時代から地域の活動に積極的に参加していました。守谷市自治会連絡協議会議長をはじめ、青少年育成相談員、居住地区の区長等々を10年以上歴任し、その間、不登校の子供の対策、学級崩壊した中学校に直接出向き子供供達と話し合い、校長やPTAの役員と協議して解決を



市内はもとより近隣の地域からも請われて、数多くの試合で主審を務めてきました。

退職して24年、今は月水金と一日おきにグラウンドゴルフを楽しむ傍ら、安全協会や福祉協議会等の顧問として地域の人々に頼りにされています。

(茨城県守谷市在住・飯塚不二男・79歳)

しました。

昨年の総会は「再建総会」と位置づけ5年5ヶ月ぶりに開催しましたが、今年の総会開催に当たっては、「昨年より今年、今年より来年」と前を見据えて「明るく、楽しく、行動するOB会」を創る事を目標に議論してきました。

総会では、活発な意見が出され、「会費未納者の2年退会はどうするか」、「6年後OB会に加入する人がいなくなるがどうするのか」、「国鉄改革を知らない組合員に国鉄改革の話を知らせるべきだ」、「OB会員はもっと地域活動をするべきだ」等々の意見が出され、昨年より一歩前進した内容の総会になりました。

また、総会前にはこれまでも行ってきた「パークゴルフ」を南相馬パークゴルフ場で行い、総会後は会場を変えて懇親を深めました。

(水戸地本OB会)

### 「組合カレンダー」のお知らせ

今年、2017年度の本部OB会費を納めた会員とエルダー組合員に「組合カレンダー」を送付します。

＝本部OB会事務局より＝

### お詫び

「本部OB会ニュース」NO.245(8月号)で、高崎地本OB会の新役員体制で副会長の春原芳雄氏と関谷則之氏の名前が抜けていました。関係者にお詫びいたします。